1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895200117		
法人名	医療法人社団 翌檜会		
事業所名	エルダービレッジグループホーム		
所在地	兵庫県神戸市西区蘆谷町福谷882		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様主体の生活の中で、「尊厳」を尊重してケアを実践している。 ・話を傾聴し、言動に対し否定的な声かけをせず、本人主体の生活が出来る様努めている。 ・身体的、精神的な変化に合わせ、支援内容を柔軟に修正、変更をしている。 ・ご家族様来所時は、近々の状態報告を行い、コミュニケーションを図っている。 ・ホーム来客(ご家族様)に笑顔で接する様に心懸けている。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体医療法人のバックアップを受け、医療と福祉相互の連携が良好に機能している。併設施設の看護師が申し送りや会議等に出席し、利用者の状態を把握、共有することで、早期対応が可能な体制が確保されている。充実した年間研修体制により、認知症への理解や適切なケアについての気づきを促す丁寧な学びを通して、職員は研鑽に努めている。あくまでも、利用者の行動や意向を尊重し、その人のペースに合わせることで利用者が暮らしやすい安心して過ごせる居場所となっている。好きな歌を歌い、楽器を奏でる生き生きとした表情からは、生きる意欲が溢れている。重度化が避けられない中でも、必要に応じて理学療法士のリハビリ訓練を可能とする環境は、利用者にとって恵まれているのではないだろうか。事業所としての大きな強みとして、認知症ケアの向上を更に目指していただきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を理解し、年間業務目標を作成。毎朝唱和し意識付けをしている。	事業所理念の中でも特に、入居者本位を重視したケアに力を入れている。そのため職員は、利用者一人ひとりのニーズを丁寧に探っていくことを心がけ、信頼関係を築くよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの訪問があり、交流出来ている。施設外の地域交流はほぼ出来ていない。	今年は、新たに手作り紙芝居のボランティアとの交流が増えた。定期的な音楽療法の訪問も顔馴染みとなり、利用者は楽しみにしている。毎年、併設施設の秋まつりに参加し、交流を図っている。地域との交流が課題である。	併設施設との交流機会を積極的に活用したり、ボランティア等の訪問を増やすことを検討されてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期、地域に向けた勉強会は実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況を報告し、出席者よりアドバイスを頂き、話し合い内容を具体化できるよう努めている。	地域代表者の定期的な参加が難しい。地域包括からは、地域の情報提供があり、それをもとに意見交換を行っている。認知症になっても地域で暮らし続けていくための話し合いの場として活用していく考えである。	地域の活動者や専門職等、参加可能なメンバーを幅広く検討されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を担当者に連絡し、助言、指導を頂いている。	市担当者から必要に応じて助言を得るなど、相談することもある。協力関係の必要性を理解し、継続して関係性を築いていく考えである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が理解しており、身体拘束の無い支援に取り組んでいる。	職員は、定期的な研修により学んでいる。毎月のフロアミーティングで、適切なケアが行われているかについて話し合い、職員間で共有を図っている。居室内の転倒防止策として赤外線センサーを活用し、職員は見守りに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の勉強会を全職員対象に実施している。適切な支援方法について話し合いを行っている。	今年度は2回の研修により理解を深めることができた。全職員がチェックシートをもとにケアを振り返り、それをもとにアンケートから意識定着を図った。管理者は、日々の業務を通じて職員とのコミュニケーションに努め、メンタル面でのサポートを心がけている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利については施設内に掲示し、全ての方に閲覧できる様にしている。	現在、成年後見制度の利用者はいない。職員は普段身近に触れる機会が少なく、制度についての理解は十分とはいえない。管理者は活用の必要性は認識しているが、資料の用意はない。	資料を整備するとともに、地域包括に講師を依頼し勉強会を持たれてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行ない、理解、納得を頂いている。	契約関係書類をわかりやすく伝え、納得しての契約となるよう十分時間をかけて説明している。医療面に関すること、特に緊急時での対応については意向を確認し、入居後も必要に応じて確認することを伝えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書、苦情相談窓口の連絡先を掲示している。 運営推進会議の議事録を閲覧できる様にしている。	年2回の行事開催に併せ、家族会を開催している。その中で福祉用具の導入についての質問があがり、検討している。普段の来訪時にも個別の時間を設け、話がしやすいようこちらから相談を投げかけ話をする時間を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況等は、ミーティングを利用し職員に伝達している。 職員からの意見は、リーダーミーティング時に管理者に伝達されている。	会議等だけでなく、管理者は日々の業務を通じて職員からの意見や提案を吸い上げるよう心がけている。毎月発行している機関誌の文字数を減らし、代りに写真を増やす提案を受け反映した。より家族が見やすい内容に改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者にて状況把握を行ない、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の状況提供、参加、実践者研修の推奨を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同区グループホーム連絡会に参加し、相互の情報交換を行なっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境の中で、不安な気持ちを軽減できるように、細かな声かけや傾聴を行ない安心、安全を確保できるよう関係作りをしている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望に対し話の場を作り、安心して頂けるように努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに対し話し合いを行ない、ほかの社会資源を含め見極めをしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体の関係を築くよう努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関わりを主に考慮し、ケアプランへ反映できるよう努めている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ外出は出来ていないが、日々の関わりの中で回想できるよう努めている。	近所の人が訪ねてくることもあるが多くはなく、家族との関係性を大事にするよう努めている。自宅に帰省し家族と一緒に過ごしたり、以前住んでいた所の話やアルバムを眺め懐かしむこともある。事業所での懐かしいDVDを観ることもある。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席位置や、リクレーションと通じ、入居者同士の関係づくりに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人的な面会等はあるが、施設として支援の実績はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き取るように努め、職員間で情報を共有している。	職員は、利用者との日常の会話や入浴時に1対1で関わった際に、じっくり話を聴くことが多い。利用者の表情や仕草から、言葉にならない想いを推し量ることもある。家族から情報を収集し、参考にしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用状況、生活状況等を家族や事業所から情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況はカルドに記載、食事量、排泄、入浴、バイタル等は別紙にて記録している。朝の申し送りは出勤者全員で行ない、他フロアーの情報も把握、共有している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロア単位のミーティングにて支援の在り方を話し合い、家族や各セクションに相談のうえ、支援計画に生かしている。	毎月のカンファレンスの中で、担当職員を中心とした3か月毎のモニタリングに沿い、必要に応じて介護計画を見直している。医療関係者や家族の意向も反映し、協力を得ながら利用者主体の計画となるよう努めている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期間の支援計画について、ケア目標用紙に記入しケアプランに繋げている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家事や事務的作業の手伝い、来客者へのお茶出し等、利用者のニーズに合わせ臨機応変に対応している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用までは至っていない。 音楽療法、書道、ドックセラピー、紙芝居等のボランティアの受け入れ、外部研修実習生を受け入れている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックでの内科、整形外科の受診に対応。歯科、皮膚科は往診にて対応。その他の受診や検査については、ご家族に依頼し、協力して頂いている。	利用者、家族の意向を優先し、これまでのかかりつけ医の受診を継続している。希望で、併設協力医を受診する場合は職員が支援し、利用者の体調変化等にも柔軟な対応が可能となっている。他科往診の利用も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接老健施設の担当看護師に報告、連絡、相談して処置や受診等の指示を受けている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院が速やかに出来るように、本人情報、生活情報を提供している。 急変時は主治医からの紹介により、緊急入院が出来る体制にある。	普段の健康管理の徹底とスムーズな受診により、入院回避に努めている。入院があった場合は速やかに早期退院に向けて、医療関係者等と話し合い、事業所での受け入れ体制を整えている。利用者、家族の意向を尊重し、安心できる環境を用意している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、家族の意向を重視し、話し合いを重ね、状況に合せた方向性を決定している。	契約時に、家族と緊急時の対応について文書で確認しているが、利用者の状態変化の都度、家族に意思確認を行い、今後の対応を話し合っている。利用者、家族の意向を尊重し、職員は、家族が安心して利用者と過ごせる環境づくりや声かけを行うなど、サポートに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに準じ対応をしている。 医療連携勉強会、心肺蘇生法の研修を実施している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、水害時の地域との協力体制は構築できていない。	今年度、避難訓練は実施できておらず、次年度は、消防署立ち合いによる訓練を予定している。いつも夜間想定による訓練をすることで、職員の危機意識の定着に努めている。法人として、地域の避難所となりうる可能性も視野に入れ、地域との協力体制を検討していく考えである。	法人としての地域への貢献活動として、地域の意向を聴きながら検討いただきたい。運営推進会議等で、継続して協力関係を築いていかれることを期待したい。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に合せた言葉かけを行なっている。呼び名に関し本人の状態に応じ、本人が安心して頂ける形で対応している。	利用者の特性や意向を十分把握し、個々に沿った対応を心がけている。職員は、申し送り等で共有を図り、業務目標を通じてさらに周知徹底に努めている。排泄や入浴時、居室ドアの開閉時等には、特に注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を伺い、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の参加を促しているが、無理強いせず本人の意向に沿うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は一緒に選んで頂いている。 理美容訪問サービスにて、本人の好みに応じられるよう対応している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の運搬、盛り付け、片付け等、個々の能力の応じた形で支援している。 不定期であるが、調理、外食の機会を設けている。	併設施設の厨房で調理されたものを、利用者も一緒にとりに行き、盛り付けや配膳に関わってもらっている。行事食や季節感ある食材を使ったメニューで、個々に応じた調理法も工夫している。たい焼きやプリン等手作りおやつを楽しむ機会が増えており、利用者も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合せた食事形態、大きさを考え食べやすい形で提供している。 水分は個々の嗜好に近いもの等、工夫して水分確保を実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の、口腔ケア、能力に応じた支援を実践している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた製品を選択し、必要最小限の使用を心がけている。	利用者の残存能力を引き出すことで、その人にとっての自立支援に取り組んでいる。排泄パターンに沿った小まめな声かけや、時間を見計らいながらのトイレへの誘導等、職員はさりげない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬以外の効果の期待できる飲物等を提供したり、医師、看護師と相談しながら対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を固定化せず、本人のニーズに合わせて入浴できるようにしている。	週に2回以上は入浴してもらうよう、声かけている。希望によって、週3回入っている人もおり、無理強いはせず個々の意向を尊重している。暖簾による銭湯の雰囲気づくり、ゆず湯等の季節風呂など、楽しんでもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間を設定せずに、個々に合わせた対応をしている。 リビングにはソファを設置、ゆっくりと座って過ごすことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬辞典、パソコンで個々に知識を学べるようにしている。 新たに処方された薬は副作用についても調べ、看護師、薬剤師の協力も得て、状態変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事手伝いは無理強いせずに、本人の状況に合わせて支援をしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出がスムーズに出来るように配慮し、天候に合わせて散歩、ドライブ、おやつ外出等を実施している。	気候に応じて近隣を散歩することが多い。季節によっては、デイサービスの送迎車を借りて遠出することもあり、車いすの人も一緒にドライブを楽しむ。季節を問わず、外気浴の機会をできるだけ持つよう心がけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持する事で安心される方には、少金額で個々に管理して頂いている。 外出時など能力に応じて、支払いをして頂いている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、施設の電話を使用して頂いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室、表札の表示は分かりやすいように工夫し、玄関やリビングは季節を感じられるような装飾を工夫している。	窓からは木々の緑が見渡せ、個々にくつろげる空間となっている。居室のある廊下は内庭からの日差しにより明るく、畳コーナーには掘りごたつや、利用者が活けた生花が飾られている。利用者合作の季節の飾りがさりげなく飾られている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには自由に座って頂けるソファを設置し、ゆっくりとくつろげる様にしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や趣向品、家族の写真などを持参して頂き、本人の和む事が出来る空間づくりに努めている。	クローゼット、洗面台が常設され、ゆとりのある広さとなっている。その人の愛着のある家具や椅子、小物入れなどが、使い勝手良く置かれている。お誕生日の写真やメッセージ等が飾られ、利用者の笑顔に癒される。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせ、展示物の高さ等を変更工夫している。 危険箇所については、身体拘束にならないようにセンサー設置し、安全に努めている。		